

令和6年度 第22回病気療養児の教育研修会 報告

大阪大学医学部附属病院分教室

1 はじめに

「病気療養児の教育研修会」は、大阪大学医学部附属病院の協力を得て毎年実施している。以下、概要を報告する。

2 第22回「病気療養児の教育研修会」の概要

日 時 令和6年7月31日（水） 14:00～17:00
場 所 大阪大学医学部附属病院 14階会議室
対 象 大阪府内の公立小中学校・高等学校の教職員
大阪府内の支援学校の教職員
本分教室に在籍した児童生徒の地域校の教職員（府外・私立学校を含む）

内 容

（1）講演「小児炎症性腸疾患患者の病態と治療 ～学校生活で大切にしたいこと～」
大阪大学医学部附属病院小児科 医師 木村 武司

<主な内容>

- ・小児炎症性腸疾患（UC：潰瘍性大腸炎、CD：クローン病）の病態と治療の最近について
- ・食事栄養療法、学校生活での注意点について
- ・本人が管理できること、周囲のサポートを得られることが、自立の上で重要。

（2）実践報告「復学のための支援と連携」

本分教室教員 桑名 智寛

3 アンケート結果報告

（1）参加者について

小学校、中学校、支援学校などから68名の参加があった。

（申込用紙集計）

所属	小学校	中学校	支援学校	その他	合計
	39(57%)	23(34%)	5(7%)	1(2%)	68

職種	養護教諭	支援学級 担当	院内学級 担当	一般学級 担当	その他	合計
	30(44%)	24(35%)	7(10%)	3(5%)	4(6%)	68

*表の数値は人数を、カッコ内は割合を表している。

Ⅲ 公開講座

(2) アンケート回答

○講演の感想より

- ・小児炎症性腸疾患への理解が深まった。医療の進歩とともに変わっていくことを折にふれて把握していくことも大切だ。
- ・病院の先生が子どもたちの将来を見据えて様々な治療をしておられることを知り、教員と同じスタンスでいることを心強く感じた。
- ・子ども目線で子どもに寄り添っておられることに感動した。教員として自身もそうありたい。
- ・大人でも苦痛で大変な検査や治療に、子どもが向き合っていることを知った。

○実践報告の感想より

- ・分教室にいた生徒の生活の様子や気持ちが分かって良かった。
- ・分教室も大切だけど、地域校とのつながりを大事にして欲しいと最後に訴えられていたのが心に残った。
- ・病院の中ながら、学校の楽しさを大切に実践されていることがわかった。
- ・退院時連絡ノートがとても良いツールだと思った。色々な疾病で医療機関との連携が必要な児童生徒が増えているので、参考にしたい。
- ・長期入院する子どもたちが、学習や学校生活に前向きに取り組めるよう、地域の学校として連携をとることができるよう働きかけたい。

4 考察とまとめ

講演は、病気に関する理解を深めることのできる貴重な機会であった。また、長く治療する必要があるため、自立に向けた言葉かけや周囲にサポートを広げておくことなど、大切にしたいポイントを学ぶことができた。

実践報告では、子どもと接する中で感じた心のケアの大切さや、子どもの心の成長など、実際のエピソードを交えて報告することができた。